

「オイ、國本判事！」

君は僕の吉村事件の辯護に反対したさうだね！

今日は鐵拳制裁を加えるかも知れない」

五バーセントのアルコールはすっかり僕を過激にし暴力團化してしまつた。

國本判事は反抗的な態度を持しながら

「君のお説は能く了解しましたが窃盜にはならなくても横領となるものと認めて横領罪に罪名を

變更して判決しました。

それで君のお顔も立つて居ると思ひますがね！」

「何が立つものか……」

執行猶豫にならなければあの男は前途は滅茶苦茶だ！

そんな罪名などはどうでも好いのだ、僕は執行猶豫を希望したんだ。

大體！ 君達は法律的殺人者なんだ！」

段々聲が大きくなる。

「僕は司法官である」

君の命令や指揮は受けない！」

その態度が甚だ面白くないと云ふのであつたか又は「アルコール」の煽動を受けたのか突然無

意識に僕の手は動いて

國本判事が〇〇を〇〇した。

淺野内匠頭の忍傷騒ぎの如く判檢事に辯護士連が駆けつけた。

「マア！ マア！」と仲裁が入る。

僕の後輩だと云ふ判事は

「〇〇するなら僕をやり給へ！」

と優さしく僕をなだめて呉れる。

「そんなに君が執行猶豫を希望されたなら何故に僕に一應話して呉れなかつたのですか！ 話し

て貰へば必ずどうかしたんだ！」

と狸の民事部長は残念さうに慰撫する。

結局この事件は僕を故郷から上京させたのである。

1

上京した僕は

下谷に事務所を設けて東京辯護士會に入會してボツ／＼事件をやつて居た。

僕の事件の依頼仲介人は易者連中であつた。

文科大學時代易學を教へたり珍本を貸してやつたりして親密になつて居た易者連が世話して呉れた。

東京では事務所を開いても嘗て「十錢辯護士」と稱せられた男の様に無料鑑定相談所等の看板を出さない以上一面識もないものが飛び込む事は至極少ない。

大概知人より紹介を受けたものである。

仲には獨逸歸の某辯護士の如く夫人が敏腕家で事件を取りに運動し夫子自身は裁判所構内の控室などをうろついて悄然とした様な顔をして居る男が居れば直ぐに聲を掛けて

「君はどうしてそんなに鬱いで居るかね！」とやり

大いに同情的態度で事件の引き受けを申出る様な男もない事もなかつた。
僕は知人達には學校時代の脱線生活が祟つて信用がなかつたが易者連中には恐ろしく信用があつた。

就中山村(假名)と云ふ易者は熱心に事件の依頼に盡力して呉れたのである。

2

或日山村君が紹介で四十三四の一見政治ゴロの眼のキヨロ／＼した男が來た。
職業が菓子屋と聞いて驚いた。

學問はあまり無いが實に理窟を云はせると論理整然として居て面白い。

鈴川(假名)と云ふ辯護士に金を貸して公正證書にしてあるが七年越一文も支拂はないさうである。

「強制執行しないで何とかして取つて頂戴したい」と云ふ依頼である。

この鈴川辯護士はこの菓子屋の淺浦の云ふところによると無頼のもぐり辯護士で東京第一であらうと云ふのだ。

而かも彼は宿酔二日に及むでも訟廷に於ては堂々として別人の如き態度になり其の抗辯振りは驚く可きものださうである。

「私もあまり彼の抗辯振りが立派ですから震災で家が焼けて弱つて居たので千五百圓貸してやりましたが約七年越一文も呉れません、彼の女房は名代の嫉妬家でヒステリーでは有名な女です。私が再三請求に行きまして彼の流連の話を素破抜きますと

このヒステリーの女房が出て来て

「貴君は！ 貴君は！」と齒を喰ひしぱり拳を握ぎつてつかみかからん許りの勢でした。非常に強そな事を云ひますが内心弱いのですからそのつもりでお願い致し升」とある。

X X X X X

僕は辯護士會名簿でこの鈴川の出身學校を調べると四十三年頃の東大法科出身である。

彼と同期の連中は検事正や裁判所長になつて居る頃である。

十年一日の如くもぐり専門で廿年以上もやれば随分立派なものになる筈だと思つた。

普通人の菓子商に金を貸りて支拂ひもしないし返事もしないと云ふ事は辯護士として面白くな

い。

同職であらうとも社會的に制裁を加えらる可き男であると僕は思つた、書面をやると返事が来た。早速彼に電話を掛けた。

「モシ！ モシ！僕は淺浦に依頼されたXですが淺浦が貴君に對して有して居る債權の取立てについてお逢ひしたいですが。」

「承知しました！ 明日の午前辯護士控室で逢ひたいと思ひ升」と凜とした好い聲の持主が返事をする。

「よろしい！ 明日辯護士控室で待ち合はせます。

僕は肥大した人相に凄味の有る男です！」

を云ふと

電話口で

「ハハ、ハ、」

と笑ふ氣配が聞える。

強肉弱食

可笑しい奴だ！ 何故に笑ふのか僕には解せなかつた。
都合によつて明日の夕方彼の自宅を訪問した。
洋館である。菓子屋の淺浦の金を踏み倒して建てた小じんなりとしたでも洋館である。
下は二間で二階が二間ある。二階のガランとした一間に彼がテーブルと椅子等を据え附けて事務所にして居る。

押し潰した様な肥ちよの女中が茶代りにコップ酒を運んで来る。

やがて鈴川辯護士が二階へ上つて来る。

四十五六の長顔で蒼白な皮膚の色に微笑を浮べて眼は異様に輝く。

然し感じは悪くないのみか非常に好感を感じられた。

この第一印象は事件の處理上に重大な結果を及ぼすものである。

「今夜はお邪魔です！」

殊に同業者でありながら貸金の催促は少し皮肉ですが御海容下さい！」

「いや！ 決して！ 職業であれば仕方が有りません」

とこの抗辯博士甚だ態度は禪味が有る。

「どうでせう淺浦の貸金はお支拂ひを願へるでせうか？」

「實はあの借財は私が依頼したものでなく淺浦から申出でて貸して呉れたものであります。私が彼の爲めにやつた事件の禮の意味もあります。」

私は彼の好意を喜んで受けましたがいざ家を建てる様になつてから利息を附けて呉れとか返還期限を附して呉れとか云ひます。

私も少しく嫌や氣をさしましたが、今更建てた家を壊したり中止したりも出来ませんのでその儘追行させました。

その後彼の催促振りは昔の特權階級の士族が士民に對する様な態度を私に取ります。訴訟事件の依頼者などがあつた時は實に困ります。

それのみならず終りには怪しげなもぐりをさしむけて私を脅かすと云ふ始末ですから斷然私は戦ふ事に決したのです」

なるほど抗辯護士の事であるから、その抗辯は割引して聞く必要が有るが。一理はある菓子屋

の事であるから矢張り一文商ひの氣分が抜けないのである。

政治ゴロに見えても理窟は面白く云ふが千五百圓の金に無利息や無期限ではいかに禮金の意味も加味して居ても思ひ切つては貸せるものでない。

「然し貴君は戦ふと云はれても債務は公正證書になつて居るから何時でも公正役場から執行文を取れば本強制執行が出来るではありませんか。」

強制執行されて家具一切を競賣されては困る事はありませんか。」

「いや競賣しても一物も持つて行く事は出来ません、その儘で据置く事が出来ます！」

「どうしてそんな事が出来ますか。」

「民法第三百六條によると雇人の給料や日用品の供給等は債務者の總財産の上に先取り特權があります。」

私は酒飲みですから酒屋にも随分負債があり米屋、炭屋、肴屋等で七百や八百は直ぐに配當加入者が出来ます。

彼等は日用品の供給者として浅浦君より先取り特權がありますからこんなガラン堂の様な事務

所や家具を強制執行して差押へても五百とはなるものではありませんよ！

家屋は數年前已に抵當權が設定して利息では随分になりますから餘裕はありませんよ！」

「然し若し貴君が再三強制執行されて支拂ふ事が出来ない場合は浅浦君が破産法第二百二十六條によつて破産の申立てをしてそれが決定すると辯護士たる貴君は辯護士法第五條第四項によつて辯護士を剝奪されはしませんか。」

「その點は御心配には及びません！」

表面破産法及び判例では一人の債權者がただ自己支拂の債權の支拂を得ないだけの理由で破産申請が出来事になつては居ますが實際は東京の裁判所では容易に一人支拂ではしない様です。

公平な分配が目的ですからね！

それに千圓内外の支拂を得ない事では辯護士を破産決定は出来ない様です。

水商賣ですから千圓や二千圓は何時儲けるか知れませんがね！

大概決定は無期延期で拂へる時迄待つて呉れる様ですな！」

「然し破産申請をされては辯護士の體面上面白くない様ぢやありませんか。」

裁判所に對しても心證が悪くなり破産管財人などに選定しませんからね！

それに暴力團でもさし向けられて貸金の抵当だと云つてどしどし家財を擔ひ出された場合は刑
事告訴をして見ても仲々埒が明きませんし暴行でもされれば困るぢやありませんか」

抗辯博士この暴力團問題でキヨロくしだした。

「貴君は暴力行爲を認めますか？」

「合法たる可き辯護士が暴力團を利用する事は面白くないし又耻づ可き事だと思ひますが？」
「私も同感です。」

宗教より道徳道徳より法律と漸次澆季的な低級になつて行くものと信じます。

然し宗教、道徳、法律孰れにても駄目であつた場合即ち相手が良心なく法律の表裏に通じて逃
け路を知つて居る場合にはこの背徳者を肉體的に罰するよりも仕方が無いと思ひます。

然しそれは異常の場合でぞんな例はあまりないでせう。」

「兎に角私は近頃感ずるところが有りました。

世の中が悪化して不景氣になつて來ては從來の様に私の如くだらしない生活をして居ては駄目

だと思ひました。

金は幾何でも儲かるつもりで遊蕩して來ましたがこの機會に淺浦君の借財を返還して無借錢に
ならうと思ひます！

貴君を見るとその感が起りました」

「お支拂ひを願へれば必ず私が責任を持つて減額致します」

「來月の十日に來て下さい。」

収入の豫定がありますから

一部は必ず支拂ひます！」

僕はこの好漢の改心を喜んで辭し去つた。

X X X X

十日に行くと半金近く呉れた。

それからの示談金残金はいくら請求しても呉れない。

或日どうしたのだと電話を掛けると碌に返事もしない。

僕は不信を憤つて

「愈々決戦しましょう！」

「数日中に着手する事にします！」

と電話を切らうとすると「一寸話したいから二三時間後に来て呉れませんか？」

と抗辯博士は電話口で云つて居る。

訪問して二階へ上ると抗辯博士は笑つて居る。

「今日の電話は失禮しました。」

私が碌に返事をしないので怒られた様だがあれは私の擔任事件の債務者がやつて来て居たので頻りにその男の脂をしほつて居たところへ貴君の電話が来たのです！

債務者が側に居るので威厳を害する恐れがあるので困りましたよ！

耳には電話のお話は聞えるが返事が出来ない様な始末です」

「どうして示談金の残額をお支拂ひにならないのですか？」

「實兄が死にまして仙臺に歸つたのです。すつかり私が葬式の費用を支拂ひました。」

その爲めに拂へなかつたのです。それに私は貴君の風采の粗野なのと暴力行爲の是認者らしいその態度に少しく人格と辯護士たるや否やに疑ひを起したので調べました。

調べて見ると兩大學の卒業生で法科と文科の兩稱號が有りました。

一科でも私の經驗上容易でないのに二科の卒業は餘程の篤學でないと出来せん。

最高學府を出られた貴君が不人情な事はされても非人情な事はされない事と信じて居りますので安心しました。

私は最初貴君が電話を掛けられて「僕は凄味のある顔をして居る」と云はれた時にこの自稱凄味男の聲が懐かし味のあるものであるので「ハハ……」と笑つたのです。

初めから人格は信じて居ましたが風采と暴力行爲是認の口吻から少し疑ひが起つたのです。疑ひが解きましたから残金は今夜支拂ひます」

僕は辯護士になつてから風采のほろ／＼と人相の異様な爲めに身元を調査された事これで三回目であつた。風采が怪しい丈け戒名の二稱號が案外役に立つ事があつた。

例のヒステリーの夫人が爛酒の入つたコップ二個を持參して二階へ顔を出す。

夫が改心して七年越しの喧かましい借財へ遊蕩費の節約して支拂ふのを非常に喜んで居るらしかった。

「宿は何百圓でも一夜よりも持つて居ませんから困ります！」と溢ほして居た。

示談金残額を受取つて受取りと公正證書の正本を彼に渡した。

それから祝ひ酒を一緒にのむ。

段々酒が廻はりアルコール分の小便の仲に混入排出する量が多くなる丈け二人は段々障壁がなくなつて種々の雑談に入る。就中抗辯博士は本性のメートルと皮肉を濫發する。

「貴君は抗辯と來ては東京一の評がある。現に僕の友人の山木（假名）などは貴君と訴訟をして弱つて居る。」

それに實に謝金の取り方を旨いさうだがどうしてそんな方法を學びました？」

「若し私が旨いとすればそれは大學生時代の苦心の結果ですね。」

「私は小學から高等學校まで親の嚴重な監督の本で勉強したのが俄かに大學で野放しになつたの

ですつかり耽溺生活に入りましたね！

如何にして遊蕩費を爺から絞り取るかに苦心しました。

それが今日辯護士となつて役に立つ様です」

「どうして謝金を取るのです」

「それは「訴訟は八分」と云ふ事の手を用ひるのです。」

訴訟が八分どころまで行つて勝算がつくと依頼者に、

この事件はもう一步突つ込むで立證しなければ負ける。その立證の爲めに買收費や調査費として五百圓位の持つて來て呉れ若し五百圓を持参すれば必ず勝つて見せると云ふのです。

この手でやれば融通のつく依頼者は五百や千の金は直ぐに持参します。

然し千圓以上取つた時は少し良心が咎めますね！

岩田宙造博士などはこの「訴訟は八分」の意味を「辯護士は冷静でなければならぬ即ち八分目迄の熱心を持つて冷静を二分丈は残して置かなければならない。さうしないと本人と同一になつてしまつて辯護士たるの資格が無くなる」と云つて居るが私は岩田辯護士とは全く見解を異

にして居ます」

彼は愉快氣にコップ酒を飲みながち話し続ける。

「私は證據品は如何なる面倒なものでも自分でこのタイプライターによつて寫す。

この證據品を寫して居る内に抗辯方法が頭に浮んで来る。

近頃は新民事訴訟法になつてスピード裁判を喜び延期して永引かせる事を喜ばないからわざと

訴訟の始まらぬ前から自信有り氣に證人申請書などを出して準備行爲をする。

訟廷で從來の大審院判例や學說と異つた意見を一寸述べて見る。

判事が、

「どうしてそう云ふ説が成立しますか？」

と來れば占めたものです。

その場では半分丈け述べて餘は次回にとやつて延期するのです」

實に流石は抗辯博士だ。延期する計畫が有れば反對にドシ／＼證人申請書などを豫め出して

判官の心證を好くするところが面白い。

人情の機微である。

この機微は彼は四年の大學時代の遊蕩生活で練へたと云ふから遊蕩も用ひ様では馬鹿にはなら
ないといつく／＼思つたのである。

× × × × ×

僕が上京後第二回事件の依頼を受けたのは一種の小労働爭議である。依頼者の女房に泣きつ
かれたのに起つて居る。相手は印刷職工達であつた。

依頼者はうちわ貼りや紙箱貼り屋の主人公で下谷に居た。

よせば好いのに印刷職工などを廿名近くも雇ふて副業的に印刷工場を経営したのである。この
印刷部で缺損して本職の方が危くなつて來たのだ。

この依頼者は山田（假名）と云つたが至極小膽者である様にも見えるが又放膽で吞氣なところ
が有つた。

夫人は、一娘が二人も、りますので裏長屋へ這入りたくは有りません！
と涙を溢ほして僕の知人の山村易者に頼むたのである。

強肉弱食

それからこの事件は僕の擔任になつたのである。主人公の山田は二ヶ月分の職工達の給料が支拂へないので恐れて逃げ廻はつて居た。

職工達は本宅のうちわ屋へ押しかけて来る。夫人も恐れて逃げは廻る。

第一高女出身で専攻科に居る長女が應對して居たのである。

職工達の要求は未拂給料は勿論退職手當が貰ひたいのだ。

山田側ではそんな金が無いから印刷器械を一部やるから忍んで貰ひたいと云ふ要求だ。この要求は僕に云ふのであつて職工に對してではない。一部とは器械の大部分は抵當に這入つて居るのである。職工達には恐れて何も云はないのである。恐れて大體一度も夫婦が逢ふた事が無い。

山田の今後の經營には印刷工場側の債權者に支拂ひを延期して貰ふ事と労働保險の積立金の滞納の支拂ひ延期である。

かくて延期中にうちわの方の収入でポツ／＼拂ひ乍ら運轉して行く事によつて、

可愛い娘達に長屋住ひから免がれせしめようと云ふのである。

三つの始末事件中最初に、

職工問題にあつた。

職工十八名を山田の宅の二階へ招いて僕一人で應對した。

彼等は僕を資本家の走狗とも思つたのか頻りに罵詈する。

その無禮な態度は實に驚く可きだ。

僕が人間の幸福と圓滿な解決は決して相手を殺ろす事ではなく。生かす事にある事を説き無理な要求を出して山田を殺せば。彼等職工達自身も蛇蜂取すになり倒れなければならぬ事を説き兩者が立ち行く事の出来る妥協案を作り。結局この印刷工場と器械を職工の手に渡して自治せしめる事に解決するには容易ではなかつた。

十八名がガヤ／＼と僕を罵詈するのだ。

僕が辯護士だと云ふので辯護士の通稱の「先生」呼ばはりを冗談半分にするものが有ると、

「何んだ！ あんな奴が先生か！ ヒヒ……」

と云ふのだ。

僕が風采が穢く又下宿屋住ひであると云ふと、

「あの辯護士は三疊の間に居るさうだ！ 碌な奴ぢやないよ！」
と聞えよがしに云ふ。

若し彼等が眞に人生を理解し得たならば又辯護士界の眞相が判かつたならば三疊の間の辯護士こそ眞に偉いと思ふのだが口許りでは「労働は神聖だ」とか「貧しき者は富めり」などと云つて居るが實際になると權勢に阿附する奴等であるからボロ／＼の風采と三疊の間の下宿屋を嘲笑するのには可哀想なほどさもない奴等だと思つた。

僕は社會が完全だとは思はないし又現在の資本家が良いと決して思はないが然し労働爭議に少しでも關係した人はあまりに彼等労働者の態度が不遜で獸の如く無禮で總べて腕力と實力で行かうとするところに憎惡の念が起る様に思ふ。

若し起らない人が居たならば神に近い人と云はなければならぬ。

僕の様な修養の足りない男では心中労働者の味方で有りながら其の感を深くしたのである。然し僕が種々雑多な罵詈雑言を陰忍してやつと妥協案を作り兩方に捺印せしめ且つ債權者達に對して七重の膝を八重に折つて彼等労働者達の爲めに今後印刷材料を貸して呉れる様に依頼したので

やつと彼等は罵詈雑言の態度を緩和した様である。

僕は凡べて對立的に執拗争ふ事を好まないし之れに對しては慄然とするほどに嫌やさを感じる本性が有る爲めかも知れないが兎に角この労働者達の對立者に對してはそれが如何なる人であつても喰つてかかり罵詈雑言して止まない態度は今後一般的に労働爭議が心ある人々に反感を持たれないかと思つた。

或日東京地方裁判所構内の廊下を僕が歩いて居る。

「オーイ／＼！ ×！ ×！ ×！ ×！ ×！ ×！」と呼ぶものが有る。

山杓（假名）豫審判事である。

彼は一高以來の僕の親友である。

本館の彼の豫審判事室の窓から呼んで居る。

「雀百まで」で十數年前の高等學校時代と同じだ。僕も彼が判事などと云ふものであると云ふ觀念はない。彼は日の丸の様な丸顔をニコツかせて笑つて居る。

強肉弱食

豫審室は入口が狭くて奥行の長いガランとした階段附きの室で。衝立で階下と階上を區切りし階上で犯人の取調べをするのである。

山柁は休憩中だ。

間もなく若い殺人犯人が連行されて椅子につく。

僕が立ち去らうとすると押し止めて、

「もう少し話して行け！ 調書が来ないから直ぐに調べられない」と云ふ。

殺人犯人は未だ弱年者の様だから年齢を尋ねると山柁は、

「十八歳だ！」

恰度僕等が一高へ入學した歳に生れたんだ！ 己達も年を取つたものだな！」

と感慨無量の態だ。僕は犯人の指紋を見る。五指共に渦いて居る皆渦紋である（文學士前島熊吉著星文館發行東西手相學及び指紋の研究參考）

正直な善人としての本性があると判ずる。

一見しても上品な少年である。

「山柁！ この被告は善玉の様だが何で殺人なんぞしたんだ！」

「なあに！ 大した事はないんだ！」

人間が良すぎた爲めの殺人さ！ 殺された相手の方が却つて悪玉だ。

君が指紋で見た通り善良だと僕も思ふんだ！ 殺人や傷害は忍耐するかしないか丈けのものさ！

己達だつて随分殺人や傷害をしさうな時が屢々有つたからな！

ただ耐へて来た丈けだ。

そこに行くと言偽や收賄は面白いよ！ 智的犯罪は調べて面倒だが面白い。

然し近頃の様には事件が過多では沁みりと調べる時間がないから第六感的な事件の感じを得ると

ころ迄行かなくても困るよ」

「そんなに多いのか？」

「うん！ 随分多いな！ 夜は十時にならないで歸つた事はない。

身體の弱い奴が検事や豫審判事になると直ぐに腦貧血や腦溢血で鹽野君の如く倒れねばならな

いよ!

明日は日曜だからこの調べが終了したら僕の宅へ一緒に行かう！
君とは久しぶりだ！ 僕の家庭を見て貰おう！」

それから一時間許りの後一緒に横濱市外の彼の自宅へ新橋驛から行く。
彼の家は磯子にある。

官省の年賦金で建てた家である。

毎月拂ひ込むでもう僅か許り拂ひ込めば自分の物になるさうだ。

夫人は一見貞淑な女で少しも近代的なモガ性が無い。

山樹に絶対服従して居るらしい。

山樹そつくりの八歳になる娘と四つ許りの男の子と赤ん坊が居る。

この四つの男の子は、

「お父さんが死ぬばこの本は皆な僕のものになるんだ！」

と姉さん達が山樹の書齋に入つて本をいちると直ぐに文句を云ふさうだ。

山樹は「死ぬるなぞと縁起の悪い事を云つて困るよ！」
と笑つて居た。

八歳の娘は、

強情的な押し賣りや無頼漢が来ると直ぐに出て應對して、

「お父さんが歸ると云ひ附けてやる！」

と云ふのださうな。

「娘は乃公が餘程偉いと思ふて居るらしい。爺自慢らしい！」

とホク／＼と日の丸の様な顔をニコづかせて話す。

「君は震災の時に横濱裁判所に居たさうだがどうして助かつたのだ！」

この叩き殺ろしても死なない山樹が横濱裁判所の全滅で死んだと一時噂されて居た時は僕は少
からず氣の毒に感じ又友を失つた事について淋しさが有つた。

「あの朝妙に裁判所へ行く時に胸騒ぎがするのだ！」

行つてからも胸騒ぎが静まらず。且つ頭がづか／＼して事務が採れないので間もなく宿へ歸

つた。そのあとが例のグラ〜さ!

司法省では僕も震死者の内に入れて居たが生存して居ると届けたので喜んで呉れた。それからすつかり氣が強くなつた。

あの時に死んだと思へば好いだからな!

「君は學校時代もビリに近くて裁判所擴張時代に司法官試験になつたのだがどうして横濱や東京で勤める様になつたのだ。

一流裁判所ぢやないか?

勿論君が頭の拔群に良い男である事は認めては居るが?

「横濱は粒が揃ふて居るが東京は不揃だ地方に置いては困る様な札附きで監督を要する連中も仲には居るね。

然し試験から本官になる時の成績が良くないと横濱や東京へは概して入れない!

僕は試験補習試験には相當に優良であつた。

口述試験に成功した。

大審院の判例を聞かれたら必ず消極説で且つ積極説を加味して居ると見れば好いのだ。」

これは名言である大審院は必ず時代の尖端は行かない新説は否定するが然し少し許りは加味させる。

仲々試験にはコツが有る。

「然し東京へ豫審判事に榮轉したのは判事として技倆を認められたのだらう?」

「少し認められたよ!

僕は道を裁判に示さうと思つて居る。

又示したつもりだ。

社会主義者の若い青年二名が窃盗を働いた。僕は區裁判の單獨判事として調べた。

「君達は他人の物を奪つても社会主義上差支へないと思つて居るらしいが自分自身の親達を痛める事が平氣で出来るかね?

他人は平氣で痛めるが肉親を痛める事が出来ないのは人間の人情だ!

その人情に悖る君達の行動は果して良いのか?」

と云ふと被告二名は俺なだれて一言も發しない。豫め僕は被告の美濃國の両親を電報で呼んで置いて執行猶豫の判決を與へて引き渡してやつた。その後被告等の手紙では家に歸つて農業して居りますがすつかり平和な良い氣持になつて居ますと手紙を呉れて居る。

職工達は他人の爲めに働いて居ると云ふ觀念が頭から離れないから反抗心が起つたり搾取される様な氣がするが農業は自分の爲めに働くと云ふ意識が強いからそんな對立的な社會主義的な氣持が無くなる様である。」

一君は新聞で見ると近頃大官の豫審に關係して居るらしいが彼等の態度はどうなんだ！」

「あれ等に對しては「貴君は昔の武士と見る可き人々である。かくの如き事件が起れば割腹自殺さる可きである。故に割腹して自殺する代りに武士らしく立派に自白して下さい」と前置きして調べるよ！」

必すスラ／＼と自白して呉れる」

「取調べ中は身邊に危険は無いのか」

「警察では心配して護衛をつけようとするが僕は平氣だ。」

大阪に行つた時も一人でどん／＼見物したよ、然しこの前に故郷へ歸つた時などは随分歓迎された。地方には豫審判事が一人だから東京もそんな様な氣がすると見えて大官連中を僕一人で豫審決定する様に思つて随分地方新聞では書き立てて呉れたのは有難迷惑だつた！ ハ、……」

其の夜は泊つて翌朝は見物した。
一高時代に彼が間貫一氣取で僕が荒尾護輔に擬して居たがその當時から随分喰氣の強い非センチメンタルな間貫一だと思つて居たが嚴めしい豫審判事になつても矢張昔の情熱を少しも失はない全然一高時代その儘の感じのする純な彼は或は裁判官中の間貫一であると思はれるのであつた而かも現時の貞淑な婦人は十年近い親の反對と戦つて遂に女房にして來たのも彼の暖い間貫一性の現はれであつた。

× × × × ×

僕は事務所では寢泊りせず別に文科大學時代に居た事のある下宿屋に泊まつて居た。
毎朝洗面所で妙な男に逢ふた。三十三四歳位で長味の有る顔で整つた理智的な閃きの有る顔だが何處となく皮肉さといねくれた氣分を直覺される特異な容貌である。

強肉弱食

誰れに對しても反感を感じられるらしかつた。
この人物は嘗て二人の角袖に微行されて居た大杉榮一派のアナキスト山川（假名）である事が後に判明した。

本職は日本畫殊に美人畫の繪師であつた。この男から不圖した事で訴訟事件を依頼された。相手は辯護士で黒井鐵雄（假名）と稱しこの繪師の庶子の戸籍に關して法律手續を依頼され三百圓の着手金を取りながら三年間も放置して置いた爲めに背任詐欺事件を構成したのである。

この刑事告訴事件を僕はこのアナキスト山川から事件の依囑を受けるや黒井辯護士に示談を奨めた手紙を出したが倨傲に構へて相手にしないのですつかり感情を害し直ちに刑事告訴をした。然るに檢事に脅かされるやすつかり慄ひ上り三百圓を持參して來たのである。

それからこの山川と僕は親しくなつた。
交際して見ると決して彼がブラウニング拳銃を携帯して非常に危険視された男とは見えす寧ろ碎けた實に面白い男であつた。

「僕も生れ落ちるからアナキストでは無いのです。私は養子でしたから叔父にあたる父の死後養

母と遺産争ひをして僕が勝ち一萬五千圓位の分配して貰ひました。

その金をモデル女上りのあばすれに注ぎ込むですつかり無くなつてから段々左傾しました。僕には昔からザシズムの傾向が有つて困りました。大杉榮先生は立派な人格者で吾々同志を養ふ爲めに口減らしとして同志でない實弟を追ひ出した人です。」

「どうしてそんな事をしたのです。」

「アナキストの主義の主要な點は相互扶助ですから喰へないものや病氣なものが有れば有力な者が養つてやる事になつて居ますから大杉榮先生のところへゴロ／＼同志が宿泊して居ります。

これ等は大杉先生の翻譯の手傳ひなどをするものもあります。
然し大勢ですから生活に困るので一人の同志は得難しとあつて。先生は實弟を追ひ出されました。その時には僕等は實に敬服しました。」

「アナキストなどが今日實行されるものだらうかねー」
「その點は認めて居ります。」

然し強權を認めず一切の強權を否定する事も極端だが然し共產主義の様に現今の國家制度以上

強肉弱食

に強制的に各人に労働を一定の時間強制し露國の如く銃剣附きで監視しながら労働せしめるのも随分極端であると思ふ。

共産主義は強権を認める事は現今のブルジョア國家以上であります。」

「強権が統一も治めもされなくて果して人類が共同生活がして行けるものだらうかね！」

「それは現今の人類の状態では駄目でありませぬ！」

吾々は目下この人類の性質の改良を目的としこのアナキスト状態の人類の生活は將來の理想として居るのです。」

「結局理想主義でない哲人主義ですわね！」

「さうです。吾々は何も現實にこの主義が行へるとは思つて居ないし行ふ事は現今の状態では困難であると思つて居るのです。」

「それでは一般の批判家連中とは實際は違ひますネ。」

「さうです彼等の逆宣傳ですよ。」

「強権を否定し警察が無くなれば大概の男は強姦位のはしかねまいと思ひますね。」

「さうです。僕でもその氣は起ります。然し警察が有る爲めに萬人が強姦しないのはありません。仲には警察が無くても強姦しない人が有ります。この貴い人間の性質を延ばし助成して自治して行く事が僕等の主義です。」

「それでは少しも危険ではない筈だか然しどうして角袖をつけるのですか。」

「それには矢張り實際はこのブルジョア國家の教育制度其の他の否定になりますから彼等が吾々を危険視するのです。僕も先月迄はブラウニングの拳銃を持つて居りましたが拳銃が有ると人を打ちたくて堪りません。私の室から見える交番所の巡査を何度も狙ひ討ちしようかと思つた事があります。」

危険ですから處分してしまひました。」

「そんな拳銃をどうして手に入れたのです。」

「或軍人が密輸入して來たのを僕が一寸借せと云つて取つて來ました。」

吾々に許可證を警視廳が呉れませんか銃砲店で携帶許可證なくては賣つて呉れませぬ。僕は震災の時に一命は無いと觀念して居りました。」

僕の自宅へ自警團連中が抜刀して

「外へ出て来い！ 斬つてやる！」

と何人もやつて来ました。

私は劍を一本持つて玄關で頑張つて居りましたが段々理解して呉れたし警察も保護して呉れたので助かりました。」

「福田大將の狙撃犯人を貴君は知つて居ますか。」

「僕の親友でした。前日二人で板橋方面に遊びに行きましたが夕方新宿へ歸つて来た時に僕を彼がまいてしまひました。」

一言もそんな事は話した事はありませんでした。

あの男は若い時から両親に死別し炭礦の監獄部屋で苦しむだ男です。

それを旨く逃げ出したが途中で發砲されて足に傷がありました。」

「貴君もまき添へを喰ひませんでしたか。」

「あの狙撃事件のあると間もなく僕等の同志の家を包圍されて我等は警察へ同行されて訊問され

たのですが皆が知らなかつたので間もなく放免されましたよ。」

「貴君は時々警察へ引つ張られますか。」

「近頃はメーデーにも出す同志とも交際しなくなつたのであまりやられませんが以前は天皇の行幸等のある場合は必ず前夜警察へ泊まらせられたものです。」

然しそんな時は刑事が機嫌を取りますから菓子や天井などのお馳走に有りつけますね！

それから角袖が必ず尾行して居ました。

性質の良いのは私が出かけようとすると直ぐに張りから出て来て何處へ行くが行く先きを尋ね「外へは立寄らないで下さい。私は歸つて試験勉強致し升」と紳士協約で相方が自由に行動する事になります。

然し岡つ引き根性の強い奴になるとドコ迄も尾行して來ます。

僕の方でも癪にさわりますから突然壽司屋へ飛び込むでやります。

彼も壽司を注文します。そして喰ひ始めます。

私は喰へないで包ませてすぐに飛び出すので奴さん狼狽して碌に喰はないで飛び出して來るの

は面白いです。

それから乗合自動車に私が突然乗つて行く先きを小さな聲で角袖に聞えない様に切らせませす。角袖が僕を指して『あの人の連れだからあの人と同じところへ切つて呉れ！』と云ふので僕が『嘘言だよ！ 僕はいつと連れぢやない。あいつは僕をつけて居る拘摸だ！』

と云ひますと、

氣の早い職人などは

『なに拘摸だ！ 撲ぐちまへ！』

と刑事を引きづり下ろして蹴飛ばします。

翌朝はこの刑事他の男と交替して其れ以後は顔を見せません！

いつか丸ビルで、

エレベーターに乗る時に客が満員近くになるまで立つて居つて私一人で満員になる時に突然乗りました

尾行は乗らうとすると乗務に

「お後に願ひます！」

と乗せない。

私は途中からエレベーターから降りて反対のエレベーターで外へ出てしまひます。

これで尾行をまくと翌朝は二人連れで尾行を始めます。

近頃は一人に一人の尾行主義を止めて監視主義を取つて居ります。天皇の行幸のある方面へは行かせない様にして居ますがこれが費用が要らなくて好いでせう。」

「貴君方は警察の拘留者中でも禮遇するさうぢやないのですか。」

「さうです。他の普通の犯罪者は呼び捨てにしますが僕等には『さん』付けや『君』付けをします。」

仲には「君方は僕等の様な無學な幼稚な思想の男と違つて學問もあり立派な人なんだ」などと煽てる警部や署長が有りますが。その煽てに乗つて威張ると刑事連が寄つてたかつてのいしてしまへます。

拘留場では帶類を一切を占めさせません。自分が縊死するだけでなく他人を絞殺する恐れが有

る爲めらしいです。

殺人犯人が来ると看守達の佩劍に封がされます。封が無いと抜いて斬れる恐れが有るらしいです。

殺人犯人にはすつかり看守は恐れます。

死刑囚は何人殺しても同じですからね。

同居の被拘留者も非常に恐れを抱きます。直ぐに怒ると殺さうとしますからね！

窃盗はしのび、強姦犯はオマンコ野郎強盗は叩きなどの名があります。

オマンコ野郎は随分馬鹿にされる様です。

吾々の主義者間ではオマンコ野郎は「自由人」と稱して居るのです。

殺人傷害者は「テロリスト」と云ひます。

拘留されて十日目位になると實に煙草が吹ひたくなります。

良い看守は時々一本内密で呉れる事が有りますが實にその旨さは何とも云へません！

拘留中の男にこの煙草を利用して自白せしめた経験が。僕が法務官時代にあつたので思ひ當つ

た。

實に煙草常用者は拘留中この煙草を見ると堪らぬらしい。

それも一ヶ月目位が頂點の慾しい時らしいのである。

X X X X X

この山川アナキストと時々郊外を散歩した。

話が皮肉で社會の人事を凡べて權謀術數的に反抗的に見るところが全然普通人の會話と異つて

居る。

同君は美人畫中でも春畫の名人である。

同君の日本春畫史の話は面白い。

又畫家の大家連中の男根の話は、僕の「生殖器と人相の關係」の研究に大いに役立つた。

「元祿時代は丸顔が春畫中にあらはれ、幕末になると長顔になる。明治になると又丸顔になつて

居る。

足利氏以前はおかめ顔の女が多い。

強肉弱食

西洋の春畫は〇〇着手中のものが多いが日本では〇〇の着手せんとするものか又終了後のものが多いのである。

それから徳川時代は武士の春畫が少くない。

武士の春畫を作ると罰せられたものである。

或奉行そつくりの似顔を春畫中のプリンスにして島流しになつた浮世繪師がある。

春畫の發達し巧妙なる事は日本は世界第一である」と

然し同君は春畫問題で屢々罰せられ拘留された事が有るので近頃は恐れて書かなかつた。

或日東京市外の某所で川魚屋に所望されたが彼は書かなかつた。

この頃は一人の亡妻の遺児が大きくなり己に小學校へ通學せんとして居る。

この遺児は養母にあづけてあるが時々彼は逢ひに行く。

強權を認めない彼は父としてよりも兄弟の如くにこの遺児を扱つて居る。

この遺児が彼の腰や手を捉へて離れないで日曜など歩いて居るのを屢々見たがこの頃はこの愛情が強くなるほどアナキスト主義は忘れられて行く様である。

× × × × ×

或日易者山村に紹介されて僕の事務所を訪れた年齢四十二三の蒼黒い長顔の男が有つた。殺人の前科者である。

彼の風貌に一種の刑餘の人と云つた感じのする痛々さと卑屈さが有つたが決して第一印象は悪くはなかつた。

訪問の目的は何か職を求めたい希望であつたので日蓮宗の新宗教で原始日蓮宗に復歸せんとして新興して居る日本山妙法寺の住職へ推舉した。

日本山妙法寺は熱海の錦浦の山の手にある原始的な僧庵が本山である。彼がたよつて行きたか行かなかつたかは知らない。

僕はこの男の前科の話を訊ねた。

彼は殺人犯などを侵した人には不似合な稀れに見る反省的な考察的なところが有つた。

「私が殺人罪で青春時代の二十年餘を刑務所で送つたのは妻の姦通問題に端を發して居ます。私は廿三の時に隣村へ入婿に行きました。

私の故郷は信州です。

村役場の書記をして居りました私は或晩宿直番の變更から突然家に歸りました。その夜は晩秋月の夜でした。

自宅へ近づくに従つて何となく嫌やな気がしました。

家の入口は開いて居ります。

家内のものではない男の下駄が脱いであります。

直ぐにウス／＼耳に入つて居た妻の結婚前の情夫だな！ と直覺しました。

激怒で全身が沸えくり返へる様な氣持がしました。

直ぐに臺所へ行つて出刃庖丁を取つて來てドン／＼姦夫姦婦の寢室へやつて行きました。

室へ入るや入らないに姦夫が組みついて來たのです。

芝居や講談本では抜き足さし足などと云ひますが到底實際はそんな模似が出来るものではありません。怒りの爲めに足音が非常に荒いのです。

直ぐに歸つて來た事は判ります。

組みつかれて格闘しましたが相手は大兵な男であつたので私が組み伏せられました。

その時に必死で手に持つ出刃庖丁で下から突き上げたのです。

姦夫は聲をあけて倒れました。

「どんな聲をしたかね」

「何とも名狀し難い聲でした！ 鶏がしめられる時に出す聲に似て居た様です。

「ギヤーツ」と云ふ様な聲の様でしたが明瞭に記憶しません！」

結局死の利那人間が哺乳動物の生地をソノ儘出して其の言靈が動物化するのである。

「それから君はどうしたかね！」

「私は側で死んだ様になつて仰伏して居る姦婦たる、妻の背からグサツと出刃庖丁を突き立てました！」

「聲をあけたかね！」

「いや！ ただ身體が波の様に痙攣しました。

強肉弱食

それは出刃をつきたてた時です。

姦夫が殺されたので已に意識を失つて居た様に思ひます。それから私は出刃庖丁を持つたきりで外へ逃げようとした。

二人の血で身体一面に返へり血を浴びたのみならず血塗で出刃が手にくつついて離れません。

この寢室から外へ出るには養父母が寝て居る寢室を通らなければなりません！

両親は逃げないで私に「助けて呉れ！ 命は助けて呉れ！」と縋ります。

私は姦夫と姦婦は憎ひとは思ひましたが養父母に對しては、殺さうと思ふほどの恨みを感じな

かつたのですが何分にも血塗で離れない出刃庖丁を持つて居る私に縋り附くので無意識に滅多矢鱈に二人を突き殺したらしいです。

それから一時餘りの後に私が畑の中で意識を失つて居るのを捕へられました。』

彼の告白中老父母が逃げないで縋りづいた事は或は眞實かも知れない。

僕の経験上姦夫奴が姦婦の變心を本夫に對する操立てよりなるものと誤解して本夫を殺ろし姦婦を傷つけた事件を調べた事が有つたが現場を目撃して居た證人の話によると

『本夫が姦夫に殺されさうになつた時姦婦は逃げないでウロ／＼して居りました。

そのウロ／＼して居るのを姦夫に頬を切られたのです』

とある。

何故か逃げたらよささうであるがかくの如き生死の問題になると全く本能的になつて理智的な行動が出来ないらしい。

家康が戰場で組伏せられて「人殺ろし」と云つたと云ふ家臣の沈着を譽めたさうだがこの行動は取れないらしい。

然し殺ろす氣の無い老父母をどうして殺ろしたか縋りついた爲めに無意識に殺ろしたと云つて居るかこの點はどうか！

少くともこの老父母に對して「青蠅い！」と云ふ氣が有り振り拂ふつもりで強く突いたのではあるまいか。

殺ろすつもりでなくとも少くともこの考察をしなければならぬと僕は思つた。

「それから判決はどうなつたかね？」

「無期になりました。養父母さへ殺ろして居らねば十年内外であつたさうですが何分殺ろす氣が無かつたとしても親殺ろしですからね！」

「刑務所は何處でやつたね！」

「北海道の網走です！」

在監中は種々の凶悪な男と一緒にになりました。

殊に強盗強姦殺人の男に数名親しくなりましたが私が

「君達は強盗に這入つて何故に強姦するのだ！」

と尋ねますと

「俺達が強盗に這入ると必ず一番先きに出て来るのは女だ。」

男の方はどうしたものが大概恐れて布團を被ぶつて慄えて居る。

その出て来た女が寝亂れ姿であると非常に濃婉な感じに打たれるので強姦したくなる。

「キチンと帯をした整然たる身づくろいの女を見るとこの欲情があまり起らない。」

と云つて居ました。

それから

「君達はどうして強姦した女を殺ろすのだ？」

と訊ねますと、

「〇〇中咽喉をキューツと締めると〇〇が締まる。

實に快感を感じるのである。

それで強姦中絞殺するのだ！」

と云つて居ました。

どうも近頃の犯罪小説とかに書かれて居ない又研究されて居ない事が随分多い様です。」

それから僕が「刑務所では同性の愛が盛んださうだね！」と訊ねると彼は嬉ばし氣な艶まめかしい表情をして

「盛んであります。」

然し一般に考へられて居る事とは違ひます。

多くの人は年の多い刑囚が若い囚人を誘惑し能動的に關係する様に考へて居ますが實際は相違

して居ります。

寧ろ年長者の方が受動的に關係して貰ふ方です。

彼等は若い時分にこの方の經驗が有りましたのが刑囚となつてから肉體美の所有者の若い男を見るとき昔を思ひ出しこの若い男に關係して貰ふものが多いのです。

この點も一般に考へられて居る點とは餘程異ると思ひます。」

「君は何時頃出獄したね？」

「今年の春です。出てから五ヶ月ほどにしかありません。

出る時は洋々たる前途が有る様に思つて勇むで出ましたが出て見ると故郷では相手にせず諸國を歩きましても直ぐに前科者だと云ふので酷い目に逢ふので喰ふ事が仲々出来ません。

地方へ行つて木賃宿に泊つて巡查に調べられます、と「信州だ」と云つても廿年近くも北海道に居て新聞を読むだ事が有りませんから少しも信州の事を聞かれても判かりません。

返事につまるので段々調べられて殺人の前科で網走に居たと云ひますと巡查は大喜びで私を一切の犯人扱ひで連れて行きます。

その邊で起つた犯罪は一切私が背負はねばなりません。

随分酷い目に逢ふた事が有ります。

宗教家を頼つて行つても相手にして呉れません。

その點は俗人の方が餘程ましです。

私は近頃何が宗教かと思ふ様になりました」

「その點は僕も同感だ。

坊主などと云ふものは浪花節や流行歌と見れば殆んど興味の無いお經を怪しげな節で諂ひ歩いて布施を貰つて歩く位のもので殆んど苦しめる人々の濟度にはならない。

然しこの日本山は案外面白ろいから。君一つ行つて修養して見給へ、世話には屈托はないと思ふ。

和尚は八宗兼學の人物で四十七八の面白ろい親知識である。

和尚曰く

「まだ行者が行き倒れに逢ふた話を聞かない。

強肉弱食

それはたより無い行者が鐘を叩き太鼓を叩いて行く姿と聲を聞いては人間の奥底にある同情心が湧き起りそれが布施となつて吾々の命を繋いで呉れるのである。」と。

達識の僧である。

前科者は随分救はれて居る様だ。

満蒙地方に末寺が随分有る。」

彼は喜んで去つた。

然し行つたか行かなかつたかも僕は知らない。

X X X X X

總選挙が近づいて来ると辯護士連は諸方へ選挙運動に出かける。

東京に居る連中は口から先きに生れた様な連中である丈けに控室で種々の論評や政談を口から出まかせに云つて居る。

このヘラス口の連中が僕の訴訟相手になると暴力團らしい風采と肥大と異面に恐れを爲して慄え聲を訟廷でするかと思ふと滑稽に感じた。

總選挙が終ると俄かに控室のストープの周圍は賑やかになつた。
落選代議士がゾロ／＼と集まつて敗將の兵を談じて居る。
「ヤア、お久し振りどうしたんだ？」
一人の辯護士が振り向いて聲を掛けた方向を見ると無産黨の闘士上村進君が笑つて立つて居る。

「敗けた！ 敗けた！」

と元氣よく哄笑しながら上村君がストープの側に寄つて来た。

「僕は同じ無産黨と稱する奴にやられた。」

「醫者が選半半ばに無産黨だと云つて立候補した。」

「僕丈けでも危いのに分裂したからしようがなかつた。」

「ハハ……」

丸角な緒顔をニコ／＼させて屈托なささうに笑ふ。

「本當に無産黨なんかね？」

強肉弱食

「それが判らない。無産黨の私薦候補だと云ふから始末が悪い。民友會(假名)

沖本頑太郎君

(假名)可哀想だった。

前大臣落ちてしまった。

随分干渉したんぢやないかと云ふのだ。

何分に選舉費用の入つて居る靴に刑事が三人ついたのだからね……。

晝夜靴について離れなかつたさうだ。

ハハ……」

それから長野縣で立候補して落選した前検事の中川(假名)君がやつて来た。

「今度は實に周密な干渉を行つた。

僕は中立で立候補したが演説は大當りで随分喝采されたが選舉に散々だった。

何分にも事務長が三度も引つ張られたからね！」

「どうしたんだ！ 違反が上つたのか？」

とさし出たがる某が口を出す。

「なあに！ 違反が上らなくても一寸来て呉れと事務長を警察へ呼んで、「違反はありませんか？」

「どの方面に運動して居られます？」

と訊ねるだけさ！

そして明日はお用新聞に「中川候補の事務長警察へ拘引せらる」と麗々しく出すのだから堪ら

ない。

警察へ行くときは刑事が三人も一緒に同行して町のものに現場を見せるのだから町の連中信ず

るのだ。

僕に對しても刑事連が演説會場迄同行しますと自動車と一緒に乗つて行くところを町の者に

見せて置いて「中川候補刑事に引かる」などと翌日の機關紙に書き立てられるのだから困るよ。

兎に角警察と機關紙が聯絡が有るらしいのには弱つたよ！

村々は駐在署巡査が青年團を指揮して居る。

甲村の駐在署は乙村へ行つて干渉するのだ。

一人が十八人位の青年團を連れて反對黨の運動員と見れば尾行させるのだ。

強肉弱食

「然し。君！ 尾行したつて干渉とはきまらないよ！ 選挙違反を防止する廓清方法ぢやないのか？」

民友黨（假名）らしい辯護士が相當に居るから直ぐに反對する。

「一方的廓清方法さ！ 與黨の運動員には少しも尾行しないのだからね！」

それから少しでも違反が上ると直ぐに警察は検事や豫審判事に金庫の封印を請求するのだ！

運動費の入れてある金庫が封印されるから弱るよ！

僕が検事時代は公正に與黨でも反對黨でもドシ／＼やつたものだが近頃の検事や豫審判事は骨の無い連中が多くてね！」

しきりに溢ほす。

「君は落選したからそんな事を云ふのぢやないのか兎に角現内閣の大勝は輿論の力さ！」

民友焦けの鼻の高いアリアン人種らしい顔をした男が横槍を入れた。

中川君黙つては居ない！

「輿論とは何ぞやだ。」

田舎では金を貰はなければ選挙するものは無いよ！

普通一圓から二圓はやらなければ選挙場へ行つて半日を潰す事をしない。

與黨は五十錢でうまくやつたのもあつたらしいが選挙民は「違反で検舉される恐れが無いから五十錢でも仕方が無い。」

と云つて居た。

僕は「金は貰つても必ずしも諸君には投票する義務は無い」と云ふのだが田舎者は正直だから仕方が無い。

要するに演説會などはしないで選挙の前日に買収費をウント懐に入れて歸つてドシ／＼バラ撒けば常選出来るね！

然し今度の様な干渉では事務長に度胸のある無茶苦茶なのであればいくら引つ張られてもドシドシ買収したら、當選した連中もあつたが上品な事務長では大概落選した。

「然し君はさう云ふが少しも干渉されなかつた連中もあるさうぢやないか？」

始めは大勢と候補者の優劣を見て居るのだ！ 愈々投票前十日頃になつてからこの候補者を落さねば與黨の候補が危いと見た時にその目指す候補に全力を集中して干渉するのだ。」

當選候補の松谷與次郎君がニコ／＼した姿も見える。
埼玉縣で與黨で有りながら落ちた松田（假名）君が角長な白皙の好色子顔を出した。

「君は氣の毒でしたね！
選舉違反事件はどうなりました？」

「取調べ中ですが心配は無いと思ひます。」

「僕でも宜ろしければ辯護をしてあげてもよろしい。」

とアリアン人らしい鼻の高い民友最員の辯護士が云ふ。

「有難う！ 有難う！」

「お願ひするかも知れません。」

今度は優勢だつたのだが公認でなかつたものだからやられた。

安田内相（假名）に逢ふて公認して呉れと云つたが僕は系統が違ふので公認して呉れない。

仕方がないので非公認で立候補したが干渉されて駄目であつた。
始めは優勢だつたのだがね聞いて見たら僅かの差で負けて居た。」
「貴君はこの前の選舉には大金を盗まれたんぢやないですか。」

「あれはうっかりした！」

選舉には何時金が入用か判からないから絶えず持つて居なければならんです。

うっかりして蒲團の間にはさむで置いた儘で寢たのでやられた。」

松田君落選しても選舉違反で起訴されて居ても苦の無ささうな顔をして居る。

「代議士は腦の空で胃の腑の丈夫な男たる事を要する」と云つて居るが腦が空でないとクヨク

心配して駄目な様だ。
勇氣盲斷が出ない。

「選舉費用の調達は随分一苦勞だらうな！」

と云ふ辯護士が居る。

この選舉費用の調達を中心に談に花が咲く

民友會の山村(假名)代議士が選舉費用は案外なところから出て居る。」

「どこから出て居るのかね。」

「政府の某閣僚からさ！」

反對黨の代議士に政府の某巨頭が金を出して居る事は實に驚くよ！

僕は金を貰ひに行つた當人だから間違ひはない。

五千圓を包んで呉れた。

「當選を祈ると云ふのだから驚く。」

「但し民友會の某巨頭も随分與黨の民友黨に某々等出して居るさうだ。

要するに代議士は兩方から貰ふものが随分あるらしいね！」

「兎に角無産黨は大團結しなければ駄目だね。」

と云ふものが多い。

アリアン人種然たる鼻の高い辯護士は飽くまでも政府黨の絶對多數は輿論だと主張して居たが多くの他の連中は「怪しい」と云つて居た。

選舉丈は弱肉強食の主義が完全に行はれるらしかつた。

X X X X

僕の知人山村易者の親族に當る卅歳許りの酒屋の某が涙を浮べて或夕方僕の事務所を訪れた。

彼の家主が年末の酒の賣り出し最中の彼の店を強制執行して店の品物を全部封印して行つたと云ふのだ。

家賃の滞納が原因である。

この家賃の原因たる借家證が公正證書になつて居る。

公正證書は確定判決と同一効力が有る。

いつでも差押へが出来るのである。

いかに不景氣で實際に家賃を支拂ふ丈の餘裕と儲けが無いとしても家賃を支拂はないのは良

くない、家賃が貰へないのでは税金が納められないから國家の存立が危くなると推論する事が出来るわけだ。

或アナキストは「人間は鳥や獸と體質が異なるので野宿には適しない。

強肉弱食

而かも野宿すると浮浪人として警察へ引つ張られる恐れが有る。

然し家賃を拂へなくて拂はない者でも法律は明渡しを命じて立退きの強制執行をする。

一體吾々はどうすれば好いのだ！ 家に居れば強制執行し無理に居れば家宅侵入罪とし外で野

宿すれば浮浪人とする。

吾々は動物よりも住所の點では恵まれて居ない！」

と云つて居たがこれにも一理は有る。

然し現今の法制の下では家賃の滞納者は違法者である。

この點は僕は認めて居る。

然しこの家主の強制執行のやり方が氣に喰はなかつた。

年末拂の約手を入れて居るのに。突然十二月下旬の賣出し最中に金を支拂へと云ふのである。

約手の期限迄待つて呉れと頼むでも承知しない。

三百が家主の代理である。僕が下手に出て頼むだが附け上つて横柄に構へて承知しない。勝手に

にしろと投げやりにして置いたら突如強制執行して來たのである。

家主は越後者で風呂屋で家作に金も随分貯へて居る有名な浴湯業では相當に知られて居る男だが強慾者で且つ代理人の三百が恐ろしく悪性な奴で一方借家人同盟家賃値下同盟の會長になつて居て一方では家主側の家賃取立顧問の陰險な奴である。

それに卅歳餘りの怪し氣な辯護士が顧問になつて居る。

この辯護士は（内の小僧）扱ひにされて居るのである。かくの如き辯護士の體面を穢しながら少し許りの金が貰ひたさにこんな三百の手先になつて居る男は徹底的にやつつける必要が有るしこの悪三百も退治する必要が有る。

僕は斷乎として法律的メスを揮ふ事に決意したのである。

直ぐに強制執行の異議を唱へた、且つ競賣價格の三分の一を積立てて強制執行停止命令を申立てた。

この申立人は酒を委託販賣して居る酒屋の支配人と家具一切を公正して貸して居る山村易者の兩人の名である。

それから年末の約手契約を無視した不法行為に基づく損害賠償を一千圓ほど請求した。

その損害賠償額の一部で家賃を相殺してしまつた。
矢継早やに三日間ほどの間に三つの訴訟と申立をして戦端を開いた。
加ふるに辯護士と三百に對して信託業法違反の刑事告發を提起したから四つ出した事になるのである。

先方からは家屋明渡しの訴訟が只一つあるのみである。
主客顛倒したのである。

戦端の幕は家屋明渡しの訴訟によつて切つて落された。
相手の辯護士は悄然として法廷に出て來た。

いざ！となると最後の生命を賭した破壊的行動に出する僕の本能が直覺されるらしい。彼が若しこの戦端に勝てば五體が完全である事は出來ない事が直覺すると勢ひその聲に震ひが出ざるを得ない。

僕ばかりと信じた訴訟に負ければ直ちに國家の法律と裁判を否定するから判事たると辯護士たるとその儘では置かないし又自身がかくの如き無力な事で生きて居る必要が無いと云ふ信念が上

京後間もなく湧いて來た。

若し僕が生きて居る事を神が必要とするならば必ず訴訟に。勝たなければならぬ場合には必ず勝たして呉れと確信して居るから、この信念に反する以上自他の破壊有るのみである。相手の三百の踊り子たる蒼白な長顔の先天的窃盜癖の有る様な顔をした辯護士は震ひ聲で申立をした判事はこれも三十四五の若い額の剃け上つた男である。

僕以前の家屋明渡しの裁判振りをみるとドシ〜新民事訴訟法のスピード裁判で片付けて行くのである。

速力の早い事は原告には有利だが被告には困る。

被告の困る事は即ち被告にプロの多い事を原則とする以上貧民階級には面白くない裁判振りだ反感がムラ〜と湧いて

僕の順番が來たが矢張り例の調子で

「公正證書で借家契約が定められ解除通知は官廳の證明のある内容證明ですから成立を認めても好いと思ひます。

否認する場合はこの文書の偽造を主張しなければなりません若し偽造でなかつた場合は過料刑に處せられる事は新民事訴訟法の規定です。

どうです成立を認めても好いでせう。

これで結審します」

と亂暴にも一審の第一回の公判で結審しようとした。

僕は

「この事件は甚だ穩當を缺く悪性なものでありまして已に刑事告發も私の名で提出してあり損害賠償も請求してあります。

この解除通知に對してはその猶豫期間の三日内に損害賠償訴訟で家賃と相殺の意思表示もしてあります。

又約手も家賃の代りに代物辨濟として渡してありますからこの解除通知が有効に成立して居ない事を抗辯したのであります。本日は調べが不足であるので次回にしたいと思ひますが次回に抗辯の爲めに延期を願ひます。

いくら延期を申立てても判事は僕の事件以前の五つの事件の處理の如く一回で結審しようとし頑として應じない。

僕はここで結審されては萬休である。

解除通知の不成立を主張する丈けの戦ひの材料を持ちながら日數が足らなかつた爲めに此處で結審されるのは實に残念である。

聲を荒けて、

「かくの如き結審は實に殘酷千萬である。あまりにブルジョアに味方する態度ではないですか？と叫むだ。」若し決定すればこの決定に對して抗告して飽く迄も争ふ決意を顔に現はした。

この決意を讀むだ利巧な判事は決審の決定に抗告されて若し決定が覆へさるれば體面問題になると見たのか。

「五日間丈け延ばします。青蠅いですから……」

と云つた。

僕は奮然とした。

強肉弱食

「青蠅」とは何事だ！ 僕は弱肉の爲めに誠意を披瀝して争つて居るのだ。その男を「青蠅男」の意味で扱ふ事は不埒千萬である。

断乎として忌避の申立をしたのである。

かくの如き低陋なる判事の裁判は仰がないと云ふ意思表示である。

判事忌避の申立てをこの裁判官の所屬して居る十三民事部へ出すと書記が僕に注意した。

「貴君もお辯護士は商賣ぢやありませんか。忌避をされなくても妥協の餘地があると思ひます」

「いや僕は辯護士を商賣とは考へて居ない。

人道を行ふ職業だと思つて居る」

「若し忌避の申立に對して理由なしとの判決が有れば貴君は感情に走つたものとして懲戒される様な事が起るかも知れません。

それでも良いですか！」

「馬鹿ッ」

と僕の態度はガラリと變つた。

相手は妻子の有る膽力の無い連中がベコ／＼商人の如くベコづいて居るのを毎日眺めて居るから辯護士と見れば嘗めて居る。

脅かすと恐れると思つて居るから安價な奴だと思つた。

日本第一の不親切裁判所の稱ある東京區裁判所の書記やらこれが代理である。

その圖々しく一時的の驕慢振りは驚く可きものだ。

大概の田舎者は威張られて益々オド／＼して折角法律手續を尋ねようとしてもあまり威張り散らすのでオド／＼して何も質問が出来ないで困つて居たのを屢々見たのである。

僕も忌避は判事や書記が下した手に出れば許してやるつもりであつたが餘りに高壓的になるので反抗心は愈々強くなつて断然提出したのである。

忌避の裁判中は本訴訟は進行中止になる家屋明渡しの訴訟は何時埒が明くのか不明になつてしまつた。

この區裁判所判事の忌避の裁判は上級の地方裁判所でやる事になる。
一ヶ月許りして呼び出しが来た。

係り裁判長に逢ふと、

忌避の申立人は常例として訴訟依頼人が爲る事になつて居ます。

辯護士は代理人たる事を通例とします。

この申立書では貴君自身が忌避申立人の様ですが變更して下さい。」

「いや！ 區裁判所の書記が懲戒を呼ばはりたして私を脅かしたので断然私自身の名で懲戒を賭してやつて居ますからその必要はないと思ひます。

「然し辯護士會と裁判所の圓滿を缺きます。是非お訂正下さい。」

「訂正しましょう。然しあの判事は何か家主らしい所が有る様ですから調べて頂戴したい」

「ハハ、ハ、」

と裁判長は笑つて居る。

判決は仲々下らない。

當分本訴訟は無期延期になつた。

刑事告發の事件は取調べが始まつた。

告發後三ヶ月目であるから驚く。

呑氣なものである。

告發人たる僕を最初に呼び出して調べる。

「貴君の告發趣旨は三百を常業とする男即ち官許なくして信託業法に屬する事を常業として居る男の告發の様ですが本件は信託業法の施行法第二條に「金銭の取立」とありますからこの男の行爲は信託業法違反ですが信託を常業とする事については證據が不十分な様です。

先方で白して呉れば好いですが仲々さうは行きません。

辯護士も同様です。

「外部關係は兎に角内部關係に於て私の事務員として使用して居ります。

と辯護士が云へば甚だ困ります。

機會を見て他の詐欺事件等に牽連してほり込むつもりですから今回は私に任して下さい」と檢事は云ふ。

斯して居る内に相手の家主が死んでしまつた。相續者が訴訟の繼承届を出すと云ふ騒ぎである。

僕は京都へ三ヶ月程事件で出張したので友人の辯護士に委任して置いたが今だにゴタ／＼して居て埒があかない様だ。
家主は勿論一文も取れない。

X X X X X

女房を取られて血眼になつて居る男が或日易者山村のところへ来た。

居合せた僕が辯護士だと聞いて、直ぐに姦通した女房の事件を持ち出してキヨロ／＼としながらくどく／＼しく鑑定を求めた。

あまりにクドクドしい男でいくら説明してやつても疑／＼つて、

『さうぢやないでせう。それでは姦通罪にならないでしょう！』

などと云ふので一喝を加えてやつた。

恐れて逃げ出すかと思ふと、

翌日僕の事務所へ来て改めて着手金を出して姦通罪の告訴代理と離婚訴訟の訴訟代理を委任した。

「先生の怒られるとぞつとします！」

あの態度でうんと相手をやつて下さい。」

と頻にクドクドしくキヨロ／＼して依頼するのである。

姦通の筋は、——この男は久本（假名）と云つて印刷職工である。一時は獨立してやつて居た

らしいが二三年前から又雇はれて職工になつて居る。然し自宅でポツ／＼内職的にはやつて居た。

先妻が死んで後妻を貰つた。勿論連れ子の小さい娘の子が有つた。

自宅で内職的にやる印刷業の爲めに廿五になる一人の雇人を雇ひ入れた。

その男が卅一になる年上の久本の女房と姦通したのである。

久本は遂に感附いたのである、それから〇〇作用を営む時間も久本が稼ぎに出た後一時間位の

後である事も知つたのである。

彼等は出かけて行つた振りして或日一時間後に歸つて見た。

〇〇の終了後で兩人は同衾して臍を上にして股を交へながら寝轉むで居たのである。

怒りに怒つて排々の如く顔を赤くした吾が久本は直ちに兩人の頸筋をつかむだらしい。

強肉弱食

〇〇至上主義者の兩名も命が無いと観念したらしいから姦夫は久本の要求によつて喜んで一札を入れたのである。

この直筆の一札を虎の子の如く久本は財布に入れて抱へて居た。

然し久本がクドクしく僕に質問するのは「この一札は許してやるから今後は關係しないと云ふ事を書けと云つて書かせたのですから姦通を宥恕した事にはならないでせうか？」

と云ふにありこれが心配で堪らないらしかつた。

その翌朝久本が出動した後で二人は手に手を取つて逃げ出したのである。

血眼になつた久本がその後一年以上も捜査するのであるが杳として貞婦の行方は不明である。

僕が依頼に基いて告訴したのは隣人が、

「あの女は随分不貞腐れでしたよ！姦通しながら久本君に啖呵を切るのです。」

「お前なんぞと今後どんな事があつても肉體的關係なんぞしないから」

なんぞと云つて居ました。

荷作りして出る時なんぞも私が止めると、

「こんな家なんか二度と歸るものか！」と云つて出ました」

と云ふのを聞いて僕は断然法律的メスを揮ふ事に決した。

英國のバーナードシヨウの説によると男は女に取つては子供を養ひ且つ自己を扶養して呉れる

機械でありそれ以外何者でもないかも知れないが少くとも結婚中に〇〇作用を他の男と營む事は

姦通子の妊娠の恐れが有り人情から見ても孫でもない子を孫としてし取扱かはしめたり實子でもない

子を實子扱ひにさまる事は甚だ不穩當の様に思ふ。

僕は女の機械として利用される事を好まないで神の許を得て獨身で居るので他人が姦通沙汰

に血眼になるのは獸的な女としては、當然の行爲を爲したに過ぎないのを今更に狼狽するのは滑

稽に感ぜられるのである。

姦通の刑事告訴と離婚訴訟とは同時になす事を要するのである。但し刑事告訴だけするならば別として。

少くとも離婚訴訟をするのには刑事告訴提出の證明を付さなければならぬ。

刑事告訴は相手が行方不明であるので進捗しない。

検事は警察に命令して手配中だから待つて呉れと云ふ民事上の離婚訴訟も相手が居ないから送達不能になった。

妻の住所は夫の住所と同じだから夫たる久本の住所へ宛てて送つても久本には同居の親族が居ないので受取つて呉れるものが無い。姦婦に取り残された久本の養娘丈けなんだから。

仕方が無いから本籍地の役場へ公示催告して貰つて送達の效力を発生せしめた。

一人土俵入りである。相手は居ない。

然し金銭問題と異つて闕席判決をして呉れない。僕が大事を取り原因を姦通に遺棄の二つにしたので姦通と遺棄の二つの事實を證明しなければならぬ。この内の一つさへ證明出来れば離婚が出来る。

この民事の進行中。

久本は或る喜び勇んでやつて来た。

姦婦が捕へられたのである。

「流石は警察です！」と大喜びだ。

「昨夜は寒中に留置場へ入れられて慄えて居ました。

遁走の恐れが有るからと云つて取調べ中は留置場に入れて置くさうです」

夫権は恐ろしいものである事を沁々と僕はこの時に感じた。

こんなキヨロ／＼キヨト／＼した男でも夫は夫である。

法律上厳然とした夫である。

然し人間界に於て其の人事現象の大部分が食ひ氣と色氣であると思ふとつくづく情けない様な氣がしたのである。

宗教と云つてもおまんこやおちんこの病氣に效能のあると稱する石を祭つたり藥を賣ると押すな押なであるが少し高尚になると誰れも参拜する者がないのである。

辯護士も大概金と色との問題であるから。時々嫌やになる事が有つた。

昭和六年二月十日印刷
昭和六年二月十五日發行
昭和六年三月八日再版

社會諸相 強肉弱食

(定價金壹圓五十錢)

著者 前島天狼

發行者 東京市神田區表神保町二番地 荻原一男

印刷者 東京市小石川區久堅町百八番地 君島潔

印刷所 東京市小石川區久堅町百八番地 共同印刷株式會社

不許
複製

東京市神田區表神保町二番地

發行所

電話神田三〇三三八番
振替東京六〇七九三番

荻原星文館





